

地域が描くまちづくりセミナーQ&A

| 質問内容 | 回答 |
|---|--|
| <p>行政を地域にまかせる体制が桑名市ではできていないのではないかと。地域のみんで考えてくださいではなく、ほかの事例にある様な政令を制定すべきではないですか。</p> | <p>まず第一歩として、自主的に地域の課題を解決できるような体制づくりの機運が出てくるのが大切であり、条例がなければ「（仮称）まちづくり協議会」の形成が滞るものとは考えておりません。 しかしながら、実際の活動を進める中で条例等の整備の必要性が生じるようであれば、先進地事例等も参考にしながら、適宜対応してまいりたいと考えます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・小学校区の中には、様々な生活形態があり、新興住宅のように、同じような条件の人ばかりではないところが難しいと思う。 ・まちづくり協議会が何をするためのものか、目的がまだまだ地域に広まっていない。今後、どのように啓発周知していくのでしょうか？ | <p>地域で暮らす様々な人が共に地域の将来ビジョンを描くことで、目的と課題を共有化することができ、地域住民が本当に求めるまちづくりの実現につながるものと考えます。 周知については、これまでも各地域ごとに説明会を開催してきたところではありますが、引き続き、今後も講演会や勉強会、ワークショップの開催などの様々な手法を検討し、職員をはじめ、市民の皆様とともに地域のまちづくりに対する機運の醸成を図ってまいりたいと考えています。</p> |
| <p>市民に対して負担になると最初は感じる。危機感をあおるものでもある。市としてどれだけの危機感、覚悟を持って、このプロジェクトを進めているのか？</p> | <p>普段の生活の中で、少子高齢化、人口減少という問題を直接的に感じる機会はそれほど多くないかもしれませんが、しかし、データに示されるようにこれらの社会環境の変化は、それぞれの地域においても、また、行政運営においても大きな課題であると捉えております。 そういった状況において、地域の暮らしはその地域の方々によって支えられているということが重要であり、地域に関わるプレイヤーを増やすことが非常に大切なことであると考えます。 今後も様々な行政データ（情報）等を市民の皆様にお伝えさせていただきながら、そのような中でも”楽しく”というキーワードを大切に、地域の支え合いの体制づくりを目指してまいります。</p> |
| <p>地域担当職員を2人おくとと言われるが、もっとスピード感を持って人数を増やしてほしい。（遅れているのだから）</p> | <p>地区市民センターからまちづくり拠点施設へ機能転換する施設については、地域担当職員を2名配置する予定としております。施策推進を図るため、必要な体制をしっかりと整えてまいります。</p> |
| <p>桑名市の場合、いろんな面で、押しが弱い気がします。職員さん達は職務ではなくて、桑名、地域のためにどのような意識でお仕事されているのでしょうか。まずはそこから（根元）の意識改革が必要だと思います。</p> | <p>職員の教育については平成28年度から地域コミュニティにかかる研修等を実施し、意識の醸成を図ってきたところです。地域に飛び出し、より住民の皆様と近いところで、様々なご意見をお聞かせいただき、しっかりと施策に反映できるよう職員の意識醸成に継続的に取り組んでまいります。</p> |
| <p>地域ビジョンを作る（大変立派な事）→誰が？誰に言うのですか？→理想は言われるが→一歩進める指導は誰か？適任者？地域に任せますか？ 市長さんが言われた担当部長を作りたいとの事。何時迄に作りたと言われと、自分達もそれまで体制作りをしようと思うが→作られてから考えます。第一歩が大切だと思います。</p> | <p>これまでに経験したことのないスピードで少子高齢化が進み、社会環境が大きく変化していきます。地域を取り巻く状況も大きく変わりゆくことが予想されます。地域の課題（暮らしの困りごと）が深刻化した段階でその対応を検討している間は、間に合わないということも予想されます。地域創造プロジェクト（案）は、市民一人ひとりが地域の現状を把握したうえで、将来を見据え、地域の課題（暮らしの困りごと）が深刻化しないように、これまでの地域活動を更に発展させた「新たな仕組みづくり」を市民の皆様とともに考えていく取り組みです。 市としても、将来を見据え、社会環境の変化にしっかりと対応できる体制づくりを進めてまいります。</p> |

| 質問内容 | 回答 |
|---|---|
| <p>1、中央レベルでの「生涯学習」組織と施設がなくなると、市民全体が平等に学ぶ機会がなくなります。</p> <p>2、地域のことは地域でと言われますが、「地域コミュニティ」が 全体に向けて、テーマの発信、人の募集が出来るのか。</p> <p>3、「まちづくり協議会」に参加する地域の自治会や組織が市民全体の「ひとづくり」はできないと思う。地区ごとのばらつきはあってはならない。</p> | <p>地域の皆さんが気軽に集まれるような場となり、皆さんが利用しやすい施設となるよう、それぞれの地域に「まちづくり拠点施設」を設置いたします。それぞれの地域へ配置する地域担当職員が積極的に地域に働きかけ、様々な話し合いの場を設けながら、地域全体のまちづくりに対する機運を高めていきたいと考えています。</p> |
| <p>・市ができないことのボーダーは。</p> | <p>地域担当職員が担う地域のまちづくり支援業務は、①地域への働きかけ、②地域の課題抽出の手助け、③各種組織、団体間、行政との調整、④事業推進の支援などが主な役割です。地域の各種組織・団体の事務の担い手としてではなく、地域住民の皆様が主体的に地域のまちづくりに取り組むことができるよう側面的な支援を行います。</p> |
| <p>1）、市民や地元から湧き出る声が、どうして届かないまちなっているのか？コレが定着している町が、急に「皆さんの声で・・・！」と言っても、信用しない。コレを定着していくには、パワーと準備が必要となる。今まで急に話が出て、決まった事として進められてきた。コレが逆転した話を、どう進めていくのか？早くからの準備をして進めてほしい→市民の声を聞き、急展開しないで！！</p> <p>2）、「おらが町をどうしていくか！」の活動は皆で昔からやっている——（長島、多度）特に合併してから、対応やトーンダウンがハナハダシイのであって、行政の反応が極めて悪い。そしてコレをはねのけて立上げるパワーが無くなってきている。うまくやっていたり様になって人が寄ってくるが、それまで持たない！！</p> | <p>地域創造プロジェクト（案）は、地域のまちづくりにおいて、地域と行政の役割分担を明確化し、それぞれが互いに協力して取り組む「新しいまちづくりの仕組み」を提案するものです。限られた行政資源を、本当に市民の皆様が求める地域のまちづくりに活用できるよう、その使いみちを『行政ではなく、地域で決める』新しい仕組みです。「自分でできることは自分で（自助）」、「地域でできることは地域で（共助）」、「地域の枠を超えて、全市民に対応すべき課題に対しては、しっかりと行政の役割として対応していく（公助）」の考え方を市民の皆様と共有し、将来を見据えて、これから地域住民の皆様とともに取り組む新たな地域コミュニティ施策の提案です。</p> |
| <p>行政から率先して育児休暇を取る姿を見せて一般企業にもしらしめしていったほしいが？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの未来、子供は大事だという事。 ・仕事が進まないなら雇用を増やしワークシェアリング ・費用が増える（市として）給料より生きがいのある時間が大切なのは。これからの時代は年収が上がるとは思えないので。 <p>○市職員の給料は減るが、職員は増えて仕事は進み（残業も減る）子供の世話、地域活動にも参加できる。</p> <p>☆収入は少し減るが、豊かな生活、結局うまくいけばお金にもつながるかも。最後は。</p> | <p>育児休暇制度については、今後もよりよい制度となるよう、検討してまいります。</p> |
| <p>1. まちづくり協議会立ち上げた時、行政と地区住民組織の意見に相違がある場合どちらが主導権を持つのか（持つのが好ましいのか）</p> <p>2. 同じように問題点を提議された場合、各地区の住民の考え方、取り組み方等、同じでない場合、行政側としては、同じ回答（取り組み方等）を方針としていくのか、又は地域性を考慮して地区の考え方を主に考えていくのが良いのか？（調整の必要性は？）</p> <p>3. 行政として、計画を立てる場合に方向性（メリット、デメリット）を全て情報も出し、検討することができるのか？</p> | <p>地域創造プロジェクト（案）は、地域の実情に応じた、地域の特色を活かしたまちづくりの推進を図ろうとするものです。したがって、地域ごとに、その具体的な取り組みには違いが生じることとなります。地域創造プロジェクト（案）は、形成を目指す「（仮称）まちづくり協議会」が地域のまちづくりの主体組織となって、行政と対等な関係のもとで、より良い“まち”の実現に向けて取り組む新しい仕組みを地域住民の皆様とともに創り上げようとするものです。地域と行政の役割分担を明確化していくことで、「相互依存型の関係」から「まちづくりのパートナー」としての関係に発展させていこうとするものです。</p> |